



辻川だより

第36号 [2015冬号] 平成27年12月5日発行

発行 辻川区 [辻川公民館]
〒679-2204 福崎町西田原 1227
TEL 0790-22-5763
ホームページ http://www10.plala.or.jp/tujikawa/public_html/



10日 18:30 LED照明お披露目



新調
いろいろ

補強金具

ベルト

車止め

一年をふり返って
区長 釜坂道弘
毎年このころながら、一年をふり返る頃となりました。辻川区では、長い間夏に開催をしていた辻川界隈展の時期を春に変更し、町が主催する「民俗辻川まつり」と一緒にすることとしました。そこでは、多くの方に辻川界隈をまるつきり見てもういたいとの思いからウオーラリーを実施しました。
夏には、地域の皆様に参加をいただき、聞かせてもらった話をもとにして秋に「辻川界隈ジオラマ(まちなみ模型)」が完成しました。これは、辻川界隈の昔の様子を知るうえで非常に貴重なものになりました。また、祭り屋台の修理をしました。昨年の祭りで傷めた泥台の新調など、平成4年に屋台を新しくしてから初めての大きがかりな修理となりました。
秋には、自律立のまちづくり事業でこの3年間取り組んだ「防災・減災」対策の集大成として総合的な自主防災訓練を実施しました。
さらに、辻川山周辺の整備も進み、観光客が増えました。多くの方が訪れることは、地域の活力につながるものと期待をしています。



10日 13:37 みっちゃん殿登場



11日 16:55 吉田・北野と3台練り



10日 13:00~ 相撲「鈴の森場所」

協議員会は今

- 10・11月の協議員会での報告・検討内容を一部紹介します。
- ① 総合自主防災訓練詳細検討
- ② 来年度事業に関して各隣保・各種団体から提出された要望検討及び来年度事業計画と予算組みの準備。公民館の雨漏り対策は早急に自治会関連費(町内会費・協力金・環境整備費・消防費・地租費)の徴収準備
- ③ 来年度補助事業の申請内容検討
- ④ 今年度自律(立)のまちづくり交付金制度の対象事業進捗状況確認
- ⑤ 辻川界隈ジオラマ完成
- ⑥ 村香典のあり方を検討
- ⑦ 11月、フラワーボットの植替え用に葉牡丹800株

お知らせ

- 福崎町の平成27年度ふるさとづくり推進事業
鈴の森神社から辻川山山頂配水池までの「学問成就の道」の擬木階段工事と階段面の樹皮舗装工事が行われる。区としては階段周辺を山頂から流下する表面水の処理を要望した。
- 町の天狗設置事業
辻川山公園内の芝生地に、北東・南西方向に張られたワイヤーにぶら下がった天狗が、約5mの高さを水平方向に約25m移動する装置が計画されている。11月着工、3月竣工予定。全額福崎町予算で設置。



10月 10日 河童池脇の天狗像

当面の予定

- 1月11日(祝) 11時~
鈴の森神社合格祈願祭
- 1月24日(日) 13時30分~
平成28年度辻川区総会
- 1月30日(土) 19時30分~
新隣保長会議
- 2月中~下旬予定
人権・青少年健全育成研修会

祭礼行事のお知らせ

- ◆ 1月1日~3日
正月祭り(鈴の森 高藤稲荷神社)
- ◆ 1月11日(祝) 10時
冬まじり(鈴の森 惠美酒神社)
- ◆ 1月14日(木) 15時~
お願ひます。(鈴の森 惠美酒神社)

事業報告

- ◆ 9月19日(土)
隣保長・各種団体役員会議
- ① 秋祭り実行委員会構成・運行予定等説明
- ② 各隣保・各種団体からの来年度事業計画への要望は10月31日締切で提出を
- ③ 道普請(道の清掃)確認
- ④ 11月実施予定の総合自主防災訓練の概要説明
- ◆ 9月27日(日) 道普請
今年も秋祭りに向けて区内がきれいになった。鈴の森神社関係では、20日から10月4日にかけて、ふれあい喫茶の世話役、消防OB会、老人会、そして宮当番の十五隣保の方々が、神社境内の清掃や草抜き、周辺の下刈りに精を出してくださった。やっこ会によって20日にはシテ棒が、27日には幟が立ち、4日には祭練会や青年団によるしめ縄張りが完了した。4日の肩合わせ前には泥



11日 8:50 辻川行 イース参上



11日 8:30 僕たちが主役!



11日 7:30 乗り子と青年団集合

台等新調の屋台お披露目会が安全運行祈願を兼ねて行われた。10月1日夜の風雨には気をもんだが、何とかしのぐことができたのも住民の意気込みが通じたからだろう。ヨカッタ。
◆ 10月10日(土)
・ 11日(日) 秋祭り
薄曇りの二日間であったが、今年もよい秋祭りができた。新調された泥台等や照明(左上写真参照)もさることながら、木方、棒端、青年団を中心とした組織がしっかりと機能し、メリハリのある祭りを楽しむことができた。照明のLED化は、上延雅之さんや青年団の連夜の作業に負う所が大きい。提灯を活かした調和と趣のある照明に仕上がった。見事。どんな祭りもその土地の人によって支えられ、魅力的に演出されてきた。当然のように戴いた休憩所の食事も、子供会のお母さん方や消防OB会のお世話があったこと。毎年楽しみにしている他地区でのお呼ばれも同様に、感謝の気持ち「ありがとう」の言葉で表したいものだ。
さて、秋祭りの雑感を少々…今年も「辻川レディース」をはじめとするシテ棒隊の大きな掛け声が大きい練りを後押しした。初の試みであった子供たちによる屋台引きは今後も継続したい。本宮夜の辻川山公園下での田尻との20分余りの練り合わせに、辻川の団結と心意気を見た。そして、何よりも見事であったのは蔵入れの時間を守ったこと。練子も十二分に練って満足の蔵入れであった。

11月6日 辻川界隈ジオラマ完成。8月お盆前の聞き取り調査には近在の方も含め72名が参加。作品には明治20年頃から昭和40年代までの約80年間の変遷がまとめてある。



11日 14:25 宮入 支える

◆ 11月7日(土)
臨時隣保長・各種団体役員会議
町の自律(立)のまちづくり事業として実施予定の、15日の辻川区総合自主防災訓練について詳細説明。役割分担確認。



◆11月15日(日)

秋季火災予防運動ポスター(田原小1年浅井陸人君[10隣保]の作品)

総合自主防災訓練

辻川区としては初めての総合防災訓練。秋季火災予防運動に併せて実施した。「山崎断層地震」を想定し、①消火栓消火、②指定避難所への避難、③要援護者支援と負傷者救出、④心肺蘇生と簡易担架づくり、⑤炊き出し等の訓練を若男女166名で行った。AED訓練には約100名が参加



その後の反省会で出された課題は、少しでも克服し、今後の訓練や有事に備えたい。

辻川公園の清掃協力
10/24、3週間も雨がなく、よく乾いた公園の草抜きに、第1ブロックを中心に辻川区から24名の参加があった。御苦労様でした。

約百年前の鈴の森神社 改築上棟式(第二回)

『十七日は氏神例祭(注1)に付き、十一時各小屋を出で郷社(熊野神社)へ練込をなす。順番は元の通り。新町・山崎は自村郷社(二の宮神社)へ練込に付き一時帰りの宮十八日来ることを。八幡は共に郷社へ入る。客分として特に二番。出掛(二宮出)は例年の如き尻番より先に出る。当日は特に「こや橋(注2)より下り各村共井ノ口に集る。『仮小屋への』帰りの矢張り「こや橋」より登る。』
十八日午後三時より餅撒(もちまき)をなす【写真8(注12)】。世話人多きため職人中と世話人二組に別れ餅撒を行ふ。



餅撒きの櫓。舞台上には櫓が並ぶ

十九日愈々(いよいよ)本日に終る。午後三時各村共練戻をなす。

明らかな間違い以外は原文通り。ただし、読みやすいように改行や句読点の修正を行い、送り仮名、注記を付けている。また、原文のカカナ部は地区名以外ひらがなへ換え、小見出しは「」で囲っている。その他の符号は次の凡例の通り。なお、ゴシック体の文章は編集子の追加である。
原文に追加した符号の凡例

「」読み仮名 「」今の用語(注) 注記あり 「」補足説明 【】写真注記ととも第一回からの通し番号 ※今の秋祭りでも思いつける節あり

練込当日の順番により宮の周囲を廻り表に出で、各村共無事帰るを見送る。

本村は主催村に付き、井ノ口と共同にて宮東の薬師堂(井ノ口堂)参詣、宮に小屋掛をなす。造り物は劔坂「現加西市劔坂」より雇入(注13)。

「造り物は」村内には東より有井仲次、太田文吉一階、松岡栄四、越(むしろ)叫(かます)会社屋根になす。栄四屋根は中嶋、松岡鹿次、外(ほか)三ヶ所は甘地、葛尾、此(こ)五日間は申分なき天気にて、前日の十四日に夕立あり又

二十一日に夕立あり。実に天祐(注14)「てんこう」と云うの外なし。各五日間共人手多かりき。

餅は三石(注15)とし本三木氏方にて搗(こ)く。
各村下宿(省略)

役割(井ノ口共に)
「係や掛(注16)のみ紹介」
迎送掛、神官掛、招待掛、職人掛、事務所詰、事務所小使、会計係、会計掛小使、電灯掛、警官掛、下宿掛、総務、造物同小屋及足場掛、大工棟梁・同職人、彫物職人、木挽(こびき)(注17)、屋根葺(かき)、瓦屋、石屋棟梁・同職人

大工棟梁二人、石屋棟梁三人へ世話人中より五反職を祝ふ。

上棟式餅撒当日、大工・石屋棟梁五人へ祝儀として一人に付き参円づ(注18)つ、外職人一人一人に付一円づつ
一酒(合)、瓶詰一本宛(注19)、折詰一ヶ宛(一円十銭づつ)

酒札は各村共三斗宛 練込当日下宿へ三升宛 十七日(中日)小屋へ三升宛 練戻当日下宿へ三升宛(計一ヶ村三斗九升宛)

三回共※櫓は五斗櫓にして正味三升宛
酒は一斗八升宛 鈴木酒店より買入、小屋番用として各村共初日に炭一俵宛分配、後は請求により送る。

各村造り物並題
吉田 お菊血屋敷
亀坪 浮木の龜山
八反田 佐賀の猫騒動
加治谷 小栗判官
田尻 曾我の対面
長目 龍虎
山崎 賤ヶ嶽七本槍
八幡 玉藻前三段目
北野 大功記十段目
大門 妹背山
中嶋 神崎東下り
新町 加藤虎狩
西光寺 三代高尾
(石井常右衛門の場)

川川・井ノ口 槍の本能寺
辻川村中
有井仲次 二階千本桜榎の実拾
太田文吉 二階(白石茶屋場)
松岡栄四 屋根(富士の巻狩)
越(むしろ)叫(かます)会社 屋根(養老の滝)

松本信太郎個人にて屋内に(鎌倉三代記すかはらの館)以下省略

玉垣・門柱寄附者
金額五円以上及び玉垣・門柱寄附者并(ならび)に各村世話人に菓子折を進呈す。其(その)氏名左記の通り

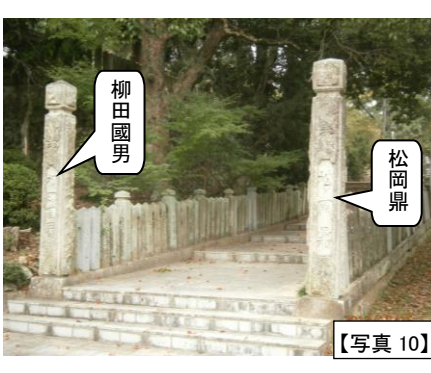
「鈴の森神社に今も残る門柱・大玉垣・中玉垣の寄進者のみ記す」
門柱
東京 柳田國男【写真10】
千葉 松岡 鼎【写真10】
北海道 松岡源之助

東京 松岡宗次門柱には北海道川内内藤利八
大玉垣
北海道 松岡百之助
中玉垣
吉田 山口大三郎
今津 鷲尾清太郎
曾根 龜田精一
姫路 児嶋秀次郎
八反田 正木新次
竹田 石原又三郎
梁瀬 田治末吉郎右衛門
八幡 平石要蔵
丹波竹田 須原次郎兵衛
.....』

鶴の造り物付の練物(山車)?
写真の衆は大半が男性と思われる。仮装して上棟式を盛り上げたか?



【写真9】



【写真10】

(注10)今は体育の日(祝)の前日が本宮(例大祭)だが、当時は郷社の古例祭として神嘗祭日に行わ

れていた。ちなみに、岩尾神社への神輿渡御は明治6年に熊野神社が郷社に列せられて以後行われている(神崎郡誌)そつだ。

(注11)「こや橋」は、今の辻川・井ノ口境の上井用水と谷川の合流地点にあった橋か。通称「こや橋」は312号線が谷川をまたぐところにあつた橋のことだぞつだ。

(注12) 舞台前方隅には縁起物の破魔矢、後方には幣束と吹き流し、拝殿正面には賽銭樽が見える。
(注13) 職人を雇つた。
(注14) 天の助け。
(注15) 三石三斗三斗三斗三斗三斗三斗。一合で小餅三つとすると九千個の餅を用意したことになる。

(注16) 掛は「改札掛」「發送掛」など特定の語について用いられた。
(注17) 材木をのこぎりでひくことを職業とする人。
(注18) すつ。割り当てること。

編集後記
大正九年の鈴の森神社上棟式では本三木家で餅を三石ついたという事ですが、一石とは大人が1年間に食べる米の量だぞつです。1日に換算すると2.74合。主食が分かりにくくなっている昨今、この数字をどう見ますか。(田崎)



【写真11】

当時2軒あつた検番の芸者衆か?…辻川は地方行政の中心地で郡役所などの宴会も多かった。